

ゆたか倶楽部 ものがたり

「ふじ丸」チャータークルーズ……⑤

「クルーズのゆたか倶楽部」は1984年に創業。日本クルーズ業界の黎明期から現在までを同社創設者・クルーズマスターの松浦睦夫氏が同社の歴史とともに語る。

2002年春、横浜港大さん橋国際客船ターミナルが完成、弊社はそこに横浜営業所を開設しました（現在はクルーズサロンとして営業中）。その夏、某テレビ局と共同で「ふじ丸」をチャーターし、翌年2月に「厦門・海南島・ハロン湾・香港・基隆クルーズ」を実施することを決定、契約を結んだ。ところが3カ月ほど経った秋口、テレビ局からCMの反応が芳しくないなどを理由に中止の申し出がありました。弊社はまだ募集を始めていないタイミングであり、大変困惑しました。

2000年頃、日本クルーズ客船の「おりえんとびいなす」と商船三井客船の「ふじ丸」の2隻は、1年のほとんどをチャーターで運航していました。しかし常連だった都道府県の船や各種団体の研修が中止や縮小に。その上に、少子化の影響で一学年あたり生徒数の平均が400名から300名ほどに減り、チャーターの修学旅行もほとんどなくなっていました。2001年、前述の2社は50パーセントずつ出資し、チャーター専門の船会社「日本チャータークルーズ」を創業、2隻はチャーター専用客船となりました。

弊社は、船会社とは信頼関係を大切にしていきますので、キャンセル料を支払えば済むという考えにはなれませんでした。弊社が全てのリスクを負い、予定していた期間のふじ丸をチャーターし「札幌雪まつり」「南紀クルーズ」「ワシントンクルーズ」の3コースを急きょ設定しました。雪まつりは冬の海の荒れるイメージが強いため、かうまく集客できませんでしたが、暖かいイメージの「南紀クルーズ」は310名様、社交ダンスをメイン企画にした「ワシントンクルーズ」も330名様のお申し込みをいただきました。ご参加のお客様には大

変喜んでいただきました。

まで8年連続で弊社がチャーターしました。この他にも同船のチャーターは10年間で52回に上り、正直そのうち4割の20回は赤字になっています。ふじ丸での長年の取り組みが認められ、2012年には日本外航客船協会から「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2012 優秀賞」を受賞させていただきました。

2004年、三菱重工長崎造船所で建造した「ダイヤモンド・プリンセス」の命名式に招待されました。同年のロサンゼルス発着の処女航海には弊社から130名様に参加いただきました。小学館から取材の申し出があり、作家の阿川佐和子氏、女優の檀ふみ氏にも同行していただくことに。寄港地ではお客様と一緒にバスにも乗車していただき、航海目にはお二人に講演をしていただきました。

2005年、創業20周年の記念に社名を「クルーズのゆたか倶楽部株式会社」に変更しました。「ゆたか倶楽部」は創業時からツアー名として使用していたので、旧社名の「南星企画」は会員の皆様にもあまり知られていないかもしれませんが。神戸営業所を閉鎖、大阪駅前到大阪営業所をオープンしたのもこの年です。

2005年の年末年始は、ふじ丸をチャーターしました。この年の日本船3船の年末年始クルーズはグアム・サイパンと台湾。道義的に同じようなコースを作ることにはできません。熟考の末、九州方面に決め、「壱岐・鹿児島・宿毛クルーズ」を発売。他の日本船に引けをとらないようステイジを菅原洋一氏にお願いし、食事も年越しそば、お雑煮、お屠蘇を。書き初め、鏡割りや操舵室の神棚の「こんぴらさん」参拝など企画を練り、募集開始から1カ月で満船にすることができました。

この頃郵船クルーズの「飛鳥」は予約に比べきれいなほど乗船希望者が多く、大型客船を新造する話が出てきました。当時造船業は活況で、新造船は竣工するまで2～3年かかります。そこで系列会

社のクリスタル・クルーズの「クリスタル・ハーモニー」を日本人向けに改装、2006年「飛鳥II」としてデビューしました。大きな改装箇所は3つで、大浴場の新設、トイレのウォッシュレットの追加、カジノエリアの縮小です。飛鳥IIはマスコミによって大きく取り上げられ、第2のクルーズブームを予感させました。今は一日も早い日本船による第3のブームを期待しています。

式など特別な機会のみ正門は校庭の先の表棧橋を使います。私は常々ふじ丸を沖合に錨泊してチャーターボートで正門側に上陸したいと考えていましたが、通常皇族と防衛大臣以外このルートは認められていません。落合峻元校長のご尽力により、業界初の江田島クルーズが生まれました。

6月にはもうひとつの夢がありました。利尻島の杓形港に2万吨クラスの客船が接岸できるようになった暁には弊社が初めて客船を入港させるといふ、田島順逸利尻町長との約束です。ふじ丸を寄港させた当日は町を挙げての歓迎式典が行われ、町長自ら船内で大漁歌を披露してくださいました。もうひとつ、いつか客船で寄港

したいと思っていた島がありました。北海道の天売島です。2007年6月の初夏にふじ丸のチャーターを決定し、タコ漁のシーズンと重なっていた漁協との調整など、なんとか入港にこぎつけ、焼尻島を含めたコースを実現できました。6月は繁殖のため100万羽もの海鳥が天売島に飛来します。ウミネコ、ウトウなど無数の鳥を見ることができました。2008年9月のふじ丸での日本一周チャータークルーズはおかげさまで満船となりました。翌年にはにっぽん丸翌々年にははっしゅいっくびいなすで、3年連続で日本一周チャーターを実施しました。



ダイヤモンド・プリンセス処女航海(2004年)の記念写真。中央左が阿川佐和子氏、右が檀ふみ氏



「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2012 優秀賞」の盾



最初のふじ丸年末年始チャーター(2005年)のパンフレット



松浦睦夫(まつうら・むつお)
長野市松代町出身。1967年大学卒業後旅行会社に入社。1984年「ゆたか倶楽部」創業。海外渡航歴171回、クルーズ業界の第一線に45年間立ち続け、2003年には日本外航客船協会が選定した初代「クルーズ・マスター」の一人に。2015年3月、31年務めた代表取締役を退任。現在は同社オーナー兼取締役。

YUTAKACLUB CRUISES
http://www.yutakclub.co.jp
東京本社:TEL 03-5294-6261
大阪クルーズサロン:TEL 06-6455-0931
横浜クルーズサロン:TEL 045-227-8211

※太平洋戦争沖縄戦の参謀・大田実海軍中将の息子